

通信小海

「新しい歌を主に」

牧師 荒俣 実 あらかみ まこと

新年あけましておめでとうございませう。新しい一年の始まりを、新鮮な思いで迎えられることを、私たちの創造主なる神様に感謝致します。この年も、「はじめに神が天と地を創造された」という事実、聖書の神は天地万物の創造主であることを覚え、福音の良き知らせをお伝えしたいと思います。

今月のみことばは、詩篇に記されているダビデ王の詩です。「新しい歌を主に歌え。全地よ 主に歌え。主に歌え。御名をほめたたえよ。」と、この世界を造られた神を誉めたたえる歌を歌うよう三度も繰り返します。なぜ、

「今月のみことば」

「新しい歌を主に歌え。全地よ。主に歌え。」

詩篇96篇1節

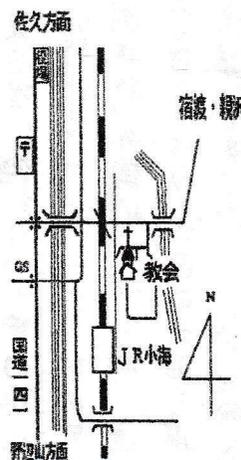
そこまで訴えるのでしょうか。

創造主なる神様は、この世界、全地を支配しておられます。今年もこうして、新しい年を迎えることが出来たと、日ごとに決まった時間に日が昇り、四季の繰り返しがあるのは、主なる神様が世界を堅く立てておられる証拠です。私たちはその恩寵の中に生かされているのです。

「新しい歌」とは、「新鮮さ」を意味します。預言者エレミヤは、エルサレムが廃墟となった中で、「実に、私たちは滅び失せなかつた。主のあわれみが尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。」と歌いました。同じように私たちも、どんなに大きな自然災害が起きても、人間の力ではどうすることもでき

見晴台の教会へどうぞ

日本同盟基督教団 小海キリスト教会
 南佐久郡小海町大字小海四三五―二七
 〒三八四―一〇二 TEL0267-8887-69
 〒振替 005300-0-6-683



集会あんない

日曜礼拝

朝 十時〜十一時半
 夕 二十時から二十一時

★毎月、第四日曜日は『歓迎礼拝』です。
 心よりお待ちしております。

★1月11日(火) 13時30分〜15時
 『小海がん哲学カフェそと』開催

○後援 一般社団法人がん哲学外来

*初めての方も安心してお越しください。

*個人的な聖書勉強や「相談にも遠慮なくお越しください。」

※当教会は、エホバの証人・統一教会ではありません。

ない状況の中でも、創造主の恵みとあわれみを思い起こし、日々新鮮な感動と感謝と共に「主に歌う」ことができず。文書やインターネットのない時代、御救いの良い知らせ、神様の素晴らしい御業は「歌」によって伝えられ、歌い継がれて来ました。どんなに人間の技術が進み、かつてなかったような物を創り出したとしても、創造主なる神様が造られたこの世界にある被造物のすべてと比べたら、それは遠く及ばないものに過ぎません。道端の草木でも、小さな虫でも、じっくり観察してみるなら、その精巧さに驚かされ、同時に、神様の造られた被造物は、みな造り主の素晴らしさを証していることを実感します。

私たちが誉めたたえるべきは、いかなる人でもなく、すべてのものの創造主なるまことの神様だけです。私たちは同じ神様によって造られ、

生かされている事実を認め、今日も創造主にいのちを与えられたことを感謝し、新しい賛美の歌を日々捧げる者になれたらと願います。



聖書を読んだサムライたち

もうひとつの幕末維新史

守部 喜雅【著】

第四章

梅子、七歳のアメリカ体験

⑥

幕府の財政が破綻、うち続く凶作と飢饉で、仙(梅子の父)が生まれた頃には、庶民の苦しみも頂点に達していました。そして、外国からの圧力が徐々に迫っていたのです。

仙は一八四四(弘化元)年、八歳の時、藩校東西塾に入り、習字、四書五

経の素読、小笠原流の礼法の基本を学んでいます。十二歳になると、仙は武術に没頭、あらゆる術を修め、十五歳で元服、立身流の達人逸見忠蔵の門に入り、その技を学んでいます。

一八五三(嘉永六)年六月三日、アメリカからペリー率いる艦隊が浦賀に来港、通商を迫ります。慌てた幕府は、今後の外敵に備えるため、江戸の海岸全域に渡り砲台を築くことを計画します。その時、十七歳であった仙も加農砲隊に加わり、千葉の鴨川に行き、碇泊するアメリカの黒船の威容に圧倒され、外国の文化、技術の優れていることを知り、外国の知識を得ようと決心します。

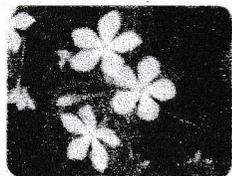
《続く》

津田梅子(一八四四—一九二九)

明治の女子教育の先駆者。六歳で、岩倉使節団に同行してアメリカに留学、滞在中にキリスト教の洗礼を受ける。津田塾大学の前身である「女子英学塾」を開校、塾長となった。

ニチニチソウ

日日草・日々想



ひとの靴を履く

大人の靴が脱いで置いてあると、それに足を入れて履いてみようとする小さい子の姿は、何とも微笑ましいものです。我が家にも、パパの革靴を履いて満面の笑みを浮かべる1歳頃の息子の写真があります。

まさに「他人の靴を履く」だなあ：と、「相手の立場に立って」という意味で使われる英語のフレーズ「To put yourself in someone's shoes」を思い出したりしました。

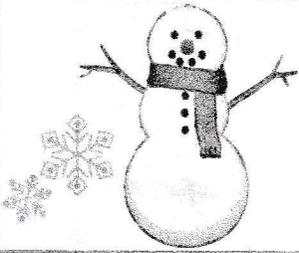
最近ニュースや新聞でもよく見聞きし、それについて書かれた本も出版されるなど、注目されている「エンパシー (Empathy)」。 「共感力」という言葉

やニュアンスで使われることが多いですが、辞書には「相手の立場に立って想像することにより、誰かの感情や経験を分かち合う能力」とあります。似た言葉の「シンパシー (sympathy)」は、「同感、共感、共鳴」「同じような意見や関心をもっている人々の間の友情や理解」と定義されることを考えると、sympathyはごく自然に「感じるもの」であるのに対して、empathyはより知的に「理解しよう」と努力を要する「働かせるもの」だと言えると思います。「分かる分かる」と言つて慰め合うのはシンパシーです。けれども、助け合い、支え合う人間関係、社会の中で、本当に助けを必要としている人は、往々にして「分かってもらえない」立場や境遇にあり、「分からない、理解・納得できない」と思う所からの出発点なのではないでしょうか。

聖書には「喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい。」という言葉があります。これはエンパシーの極みではないかと思うのです。相手が誰であつても、共に喜び、

共に泣く……ここまで到達することはなかなか難しいですが、感情的に同じ気持ちになれなくても、自分とは違う立場、境遇、思いや考えの人を、理解しよう、分かろうと努力することはできます。そして、このエンパシーを働かせることが出来るのは、心が健全に育ち、自分をきちんと持つている人だと思えます。人の靴を履くのは違和感があつて当然だし、サイズ違いの物を履いて歩けば痛みが生じるように、感情の共鳴ばかりしていたら、心が疲れたり、自分がぶれてしまつたりして、悩まなくて良いことまで背負い込んで、つぶれてしまうでしょう。けれども、一度、人の靴を履いてみて、しつかり感じ取つてから、きちんと自分の靴に履き直すなら、その心配は要りません。

どのような場所、立場で生きるにしても、自己理解と自己受容に立つて、他者理解・他者受容をしていくことが出来たら、お互いを思いやれる優しい人間関係が築かれて、社会はもつと平和になる……そう思います。



小海がん哲学 カフェそると



当事者の方、ご家族、友人など、どなたでもお気軽にお越しください。
皆さまにとって良い塩梅の場になるようにと願いつつ、お待ちしております。

日時：1/11(火)、2/8(火)、3/8(火)、4/12(火)

*各回 13時30分~15時

場所：小海キリスト教会 長野県南佐久郡小海町大字小海4355-27

参加費：200円(お一人様)

お問い合わせ：090-7422-3781(佐藤) SMSでもお気軽にご連絡ください。

後援 一般社団法人がん哲学外来

がん哲学カフェとは

「病と共に自分に与えられた人生を尊厳をもって生き切る」ことに向き合う。これが、がん哲学です。より多くの方が「病気であっても病人ではない」安心した人生を送れるように寄り添う場として、背景や立場が様々な方が集い対話する「カフェ」という形をとって全国に広がっています。



新型コロナウイルス 感染拡大防止のために

お互いの心身の健康のため、下記事項にご理解とご協力をお願い致します。
○入館前の手指の消毒、マスク着用、検温にご協力ください。
○氏名、連絡先のご記入をお願い致します。
あらかじめご了承下さい。

生活困窮者支援

山谷(やま)農場

今年も皆様のご支援を
宜しくお願い致します

日頃より、随時お寄せ下さる物資と皆様のご支援を、心より感謝申し上げます。

新しい年を迎えました。今年もお米・板海苔・未使用切手・書き損じハガキなど(少量でも構いません)続けてお寄せ下さるよう、どうぞよろしくお願い致します。

〈連絡先〉藤田 寛

☎ 090-1436-6334

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

〈物資送付先〉小海キリスト教会、または、南牧村社協へ。〒384-1302南牧村大字海ノ口966-15南牧村社会福祉協議会 会気付 山谷農場事務局(藤田)

カンパ:〒振替〇〇二四〇四一五三七九六

☆活動の近況などは、山谷農場フェイスブックをご覧ください。

